

○報告書（H27. 12. 25 時点案）からの主な修正点について

該当箇所		関係意見（要旨）		対応
* 1	P. 3 「2（1）地域リハビリテーションとは」の1つ目の○について	健康福祉政策課	障害者・児も踏まえた記載にするべきではないか。	御意見を踏まえ、分野別とステージ別の双方の観点からリハビリテーションの分類を記載。
* 2	P. 4 2（1）用語の定義 「4）地域リハビリテーション関係機関」について	松川構成員 岡田構成員	「障害者相談支援機関」は「障害児・者相談支援機関」とした方が良い。	御意見を踏まえ修正。
* 3	P. 4 用語の定義について	田中構成員 吉永座長	様々な定義が流れているため、明らかに出典のあるものについては出典を記載した方がよい。	御意見を踏まえ出典を記載。
* 4	p. 48 「3（1）⑤まとめ」について	健康福祉政策課	関係機関調査結果概要等のまとめとして、分析結果を記載してはどうか。	御意見を踏まえ、「（1）千葉県の現状」の最後に「⑤まとめ」の項目を追加。
* 5	P. 50 「4（1）基本方針①地域リハビリテーション支援体制整備推進の理念」について	各構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・「したい生活」はここだけ口語的なため、「望む生活」はいかがか。また自らが「望む生活」が、閉じこもり等反社会的な場合、許容するのか。（岩本構成員） ・「したいこと」は人や時期によって変わるものであり、本来のニーズとは、相互交流のプロセスを経て引き出すものである。「自らが本来のしたい生活」はいかがか。（竹内構成員） ・「本来的にその人がしたい生活に近付けるためにはどうすればよいのか」の議論が意外と抜けていると思い、そこに気付きをもっていくために「したい生活」という言葉を使った。 <p>また反社会的な方をどうするかの問題については、文章として載っているからといってその言葉尻で解釈するのではなく、本来、関わる人同士がきちんと議論して考えるべきことと思う。（田中構成員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己選択・自己決定」の前に、本人の問題解決能力を向上させるような取組が必要であり、その過程で反社会的は却下されるのではないか。（竹内構成員） ・「いつまでもその人らしく健康で」や「いつまでもその人らしく健やかに」等を、「望む生活」や「自己実現」等の前に挿入してはいかがか。（岡田構成員） ・反社会的な発言の裏には「こんな生活を実はしたくなかった」という思いが隠れている場合がある。そこを引き出す過程を踏んだ上での「真のしたい生活」がこの言葉が指すものと思う。（松川構成員） 	理念は「したい生活」を用いて簡潔に標記し、解説を追記。

			<ul style="list-style-type: none"> ・リハは「良くする」、ケアは「豊かにする」役割を果たす。リハとケアの要素を統合し、「自らが望むよりよい生活とより豊かな人生」はいかかか。(竹内構成員) ・個だけでなくマスつまり互助等も含めた表現にするため、「その人らしく」は取り、「全ての人が、より良い生活やより豊かな人生を実現できるように」はいかかか。(田中構成員) ・地域リハは「住民」を使う傾向にあるが、「本人と家族とスタッフと地域」が「より良く・より豊か」になることが重要。(竹内構成員) ・「したい生活」は、考えさせられるため良いと思っていた。(亀山構成員) ・「したい生活」は良いと思うが、いろいろな前段階のない人が読むとそのまま受け止めてしまう可能性がある。(松川構成員) 	
* 6	P. 51 「4 (1) 基本方針②基本目標」について	田中構成員	世の中には沢山の種類の「支援センター」があるため、正確に記載したほうがよい。	御意見を踏まえ修正。
		健康福祉政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標Ⅰの説明文に、「強化・充実」につながる内容がない。 ・基本目標Ⅱの「地域住民に身近な地域リハビリテーション」が指す内容が分からない。 	御意見を踏まえ、基本目標の説明文を修正。
* 7	P. 52 「4 (2) ①支援機能の強化」の1つ目の○について	健康福祉政策課	<地域の実情に応じて取り組むべき機能・役割>は、地域によって実施内容等は異なるかもしれないが、いずれのセンターでも実施すべき内容ではないか。	優先順位の高さから<全ての広域支援センターが果たすべき機能・役割>と<地域の実情に応じて取り組むべき機能・役割>の区分を行った旨追記。
* 8	P. 53 「4 (2) ①支援機能の強化」の表4-1について	健康福祉政策課	災害時の地域リハビリテーション支援体制の構築は、県レベルで考えていくべき問題であり、広域支援センターの<地域の実情に応じて取り組むべき機能・役割>として突然登場することに唐突感がある。	御意見を踏まえ修正。
* 9	P. 55~57 「4 (2) ① 支援機能の強化」の2つ目の○について	各構成員	各柱の内容に対する御意見については、別紙1参照	御意見を踏まえ修正 (資料2-3参照)
* 10		田中構成員 竹内構成員 松川構成員	<p>「職能団体 (リハ専門職以外)」の柱について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科、薬、栄養等を載せられるような雰囲気を出せると良い。 ・想定している個別の団体名を列記するのはいかかか。 	御意見を踏まえ、団体名の例示に追記。
* 11		亀山構成員 中村構成員 岡田構成員 (追加意見)	(図4-2の修正図(案)については、メールにて情報共有済みのため記載省略。)	御意見を踏まえ、図4-2を修正
* 12	P. 59 「4 (2) ③住民参加の促進」について	松川構成員	(「4 (2) ①支援機能の強化」の表4-3について、) NPOや患者会・家族会、社会福祉協議会等、地域組織や住民等をひとくくりにして4つ目の柱とするのはいかかか。	報告書の構成上、推進方策①「支援機能の強化」ではなく、推進方策③「住民参加の促進」で追記。

* 1 3	p. 60 「5 評価指標」について	健康福祉政策課	施策の目標値は、計画等の策定時に県が設定すべきものである。(検討部会では評価指標の提案までとすべきではないか。)	御意見を踏まえ、修正。
* 1 4		岩本構成員	広域支援センターがこの評価指標を見て、どのような動きをするべきか考えるようなもの良いのではないか。	御意見を踏まえ、広域支援センターの活動指標を追記。
		評価指標の項目について		
		岩本構成員 (追加意見)	(推進方策1) 支援機能の強化 ・広域支援センターの医師、看護師、PT・OT・ST・MSWのうち、職能団体主催の地域リハビリテーションに関する研修を修了した者の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・ <全ての広域支援センターが果たすべき機能・役割>に即したものを指標として採用。 ・ 介護保険関係に偏らないよう調整。
		岩本構成員 (追加意見)	(推進方策2) 連携体制の充実 ・ 連絡協議会に、出席した職能団体の数 ・ 要介護認定者のうち、介護度が軽くなった方の割合	
		岩本構成員 (追加意見)	(推進方策3) 住民参加の促進 ・ 市町村主催の介護予防事業に参加した地域住民の人数 ・ シニアリーダー(千葉市)、いいアンバサダー(市原市)のような、介護予防事業のボランティアに登録した地域住民の人数 ・ 千葉県政に関する世論調査の「地域リハビリテーションについて」で、介護予防事業に参加した経験、ボランティアとして関わった経験を質問する。	
		岩本構成員 (追加意見) 田中構成員	(推進方策4) 市町村との協働 ・ 地域ケア会議、在宅医療・介護連携推進会議など、市町村や地域包括支援センター主催の会議に、リハ専門職が出席した回数 ・ 介護予防事業や地域ケア会議にコミットしているリハビリテーション専門職の人数	

○ 地域リハビリテーション関係機関の機能・役割について (P. 54~56 表 4-3)

該当箇所	原案	修正案		
職能団体 (リハ専門職)	①支援機能 の強化	・広域支援センターを窓口としたリハビリテーション専門職の協力体制の構築により、地域リハビリテーション関係機関の支援に努める。	・広域支援センターと連携して、リハビリテーション専門職の協力体制を構築するとともに、広域支援センターを窓口として、地域リハビリテーション関係機関の支援につとめる。	岩本構成員
			・広域支援センターを窓口とした協力体制の構築に努め、地域リハビリテーション関係機関の支援を促進する。	松川構成員
		・研修会等を通じて、専門職の地域リハビリテーションに対する意識向上に努める。 ・地域支援に携わるリハビリテーション専門職を増やすとともに、知識・技能の向上に努める。	・研修会や広報活動等を通し、会員の地域リハへの意識向上そして地域支援に関わる知識や技術の向上に努める。	松川構成員
		・他職能団体等との研修会の協働開催や地域相互の交流促進に努める。	・OT会やST会との連携を強化し、職種を超えた人材育成や地域支援に係る機能強化に努める。	松川構成員
	②連携体制 の充実	・連絡協議会等への積極的参加を通じて、地域の関係職種との情報交換と課題解決、及び地域リハビリテーション関係機関相互のネットワーク構築に努める。	・各圏域で開催される連絡協議会への参加・協力を努め、圏域ごとの連携体制の構築に寄与する。	松川構成員
		・多職種・多機関との連携強化により、急性期・回復期・地域生活期の切れ目のない支援だけでなく、急性期・在宅間の円滑な入退院支援に努める。	・多職種・多機関のみならず、理学療法士の中でも急性期・回復期・地域生活期の切れ目のない支援につながる連携体制の構築に努め、県民への適切な理学療法の提供に寄与する。	松川構成員
	③住民参加 の促進	・地域住民に対する健康増進・介護予防・認知症対策・コミュニケーション障害等の啓発に努める。	・住民の自助・互助による健康づくりや支え合いの活動に職能を活用した貢献を促進する。	松川構成員
	④市町村と の協働	・地域ケア会議等の地域包括支援ネットワーク構築の場への専門職の参加促進に努める。	・地域ケア会議や介護予防事業等をはじめ、市町村の地域リハ活動支援事業に対して貢献するよう努める。	松川構成員
・リハビリテーション専門職の少ない地域への支援に努める。		・リハ資源が少ない市町村への支援に努める。	松川構成員	
職能団体 (リハ専門職以外)	①支援機能 の強化	・広域支援センターとの相互理解を推進し、広域支援センターとの相談・協力体制の構築に努める。	・広域支援センターとの相互理解を推進し、広域支援センターとの相談・協力体制を構築する。	岡田構成員
		・研修会等を通じて、専門職の地域リハビリテーションやリハビリテーション前置主義に対する意識向上に努める。	・研修会等を通じて地域リハビリテーションの必要性や意義を啓蒙する。	岡田構成員
		—	・他職能団体、病院、地域等との研修会の共同開催や交流促進に努める。	岡田構成員
	②連携体制 の充実	・連絡協議会等への積極的参加を通じて、地域の関係職種との情報交換と課題解決、及び地域リハビリテーション関係機関相互のネットワーク構築に努める。	・連絡協議会等への積極的参加を通じて、地域リハビリテーションの現状及び課題を共有し解決方法を検討する	岡田構成員
		・医療提供者の連携強化により、医療依存度の高い方等も安心して在宅療養に移行できる体制の構築と、「治し・支え・癒す」質の高い地域医療の提供に努める。	・あらゆる療養の状況にある人でも主体的な生活を継続するためのリハビリテーションが継続できる環境を提供する医療・介護体制を構築する。 ・療養者が、切れ目のない支援を受けられる様に病院と地域における医療・介護の連携が円滑におこなえるような体制を構築する。	岡田構成員

		・高齢者に切れ目のないリハビリテーションが提供されるよう、適切なケアサービスのマネジメントの促進に努める。	・高齢者が生涯を通じて継続したリハビリテーションを受けることができるケアマネジメントを提供する。	岡田構成員
			・高齢者等に切れ目のないリハビリテーションが提供されるよう、適切なケアサービスのマネジメントの促進に努める。	中村構成員
	・リハビリテーション看護の視点を持ち、対象者の安全・安楽・自立と平和な死への援助に努める。	・終末期における適切なリハビリテーション環境を整備し、希望する場所で、最後まで過ごせるように医療・介護の連携体制を構築する。	岡田構成員	
	—	・小児・障害者（児）が地域で安心・安全・自立した生活がおくれる様にマネジメント機能を充実させ、医療・介護の連携体制を整備する。	岡田構成員	
③住民参加の促進	・地域住民に対する健康増進・介護予防・認知症対策等の啓発に努める。	・地域住民に対する地域リハビリテーションの推進に向けた啓発を促す。	岡田構成員	
	・高齢者だけでなく、小児、障害者、難病患者等も含めた地域づくりに努める。	・小児・障がい者・高齢者を含め地域における全ての住民が地域リハビリテーションに参加できるよう啓発活動を行う。	岡田構成員	
	④市町村との協働	・市町村等との連携の要になりうるリハビリテーションの視点をもった専門職の増加に努める。	・リハビリテーション専門職との協働を推進するための調整力を有する専門職の育成を図る。	岡田構成員
	・行政機関との連携により、予防的ケアが必要な方の支援に努める。	・行政機関等との連携を図り予防的なリハビリテーションの介入を推進する。	岡田構成員	
	・広域支援センター等と協働し、地域に不足している地域リハビリテーション関連資源等を検討し、多職種と協働して既存資源の活用促進及び新しい資源の構築に努める。	・地域リハビリテーションの支援体制構築に不足した社会資源の開発や既存の資源の活用促進に向けた提言を行う。	岡田構成員	
	・地域ケア会議等の地域包括支援ネットワーク構築の場への専門職の参加促進に努める。	・地域包括ケア推進に向けた活動に協力し、専門職のネットワーク構築に貢献する。	岡田構成員	
行政機関	①支援機能の強化	—	・広域支援センターと共同して、地域の事情にあった地域リハビリテーションが提供できるように環境整備を行う。	岡田構成員
	②連携体制の充実	・高齢者に切れ目のないリハビリテーションが提供されるよう、適切なケアサービスのマネジメントの促進に努める。	・高齢者等に切れ目のないリハビリテーションが提供されるよう、適切なケアサービスのマネジメントの促進に努める。	中村構成員
		—	・情報の集約・ハード面の協力など、地域リハビリテーションの活動に協力する。	岡田構成員
	③住民参加の促進	—	・地域リハビリテーションを推進する団体が行う研修会等の広報を支援する。	岡田構成員